

「先駆者ヨハネの誕生」

ルカ1:5～23 p106

「御使いは彼に言った。『恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです』」(ルカ1:13)
ある牧師先生がルカの福音書の学びをするに当たり、「ここでザカリヤは何をお祈りしていたと思いますか？」と質問された。これは聖書に書いてない事であるが、推測し、思い巡らすことにより聖書がグッと身近になり、聖書研究会参加者の態度が変わったということである。

さて、私たちも祭司ザカリヤは何を神殿で祈ったのだろうか・・・？ 考えて見よう。

自分たちに子どもが与えられるように祈ったのだろうか・・・。もしそうであるなら、このみことばを受けた時、感謝はするが、驚き、疑うはずはない。神殿で香を炊き、お祈りするという奉仕は、大勢の祭司の中で一生に一度あるかないかの特権である。何を祈っていたのだろうか？

このイスラエル公式の国民的祈祷の中で、最大の祈祷課題は、救い主メシヤが早く来られるように祈る事である。そして、救い主が来られる前に、必ず、先立つ預言者が現れると預言されている(マラ3:1)。そのため、聖所における祈祷課題は、まずこの先駆者である預言者が与えられますようにと祈るべきであり、彼は当然祈ったであろう。しかしその祈りが聞かれ、自分の身にそれが起こる。我家に救い主の先駆けの預言者が生まれる…。ザカリヤはためらった。あまりに驚くべき事ではあるが、神の主権と能力によるなら実現すると信じるはずであった。

私たちも様々な事を祈るが、その祈りがどのような神の手段、方法によって叶えられたとしても、マリアのように一切を成して下さる神様を信じ、お任せして、私たちは アーメン！と答えるべきであることを教えられるのである。

[聖書の学び]

I、救い主の誕生に備えられた神 一救い主はなぜ、あの時代に誕生されたのか？一

1、あらゆる時代の人類の中で、ただ一人この方が救い主であると特定できるため。

①旧約聖書が聖典として制定された。BC200年頃、旧約聖書(ギリシャ語70人訳)が制定された。

- ・ 散在している、おびただしい量の巻物の書の中から、39巻を聖典と定められた。
(II テモテ3:16 p428)
- ・ これにより救い主を判別できる。(I コリント15:3,4 p349)

②預言者たちにより、語られた通り一つも違わないように生まれ、生きられる時代。

- ・ ダビデの子孫であることがハッキリ判別できる時代。(イザヤ11:1旧 p1185,マタイ1章 p1)
(AD70年のローマによるエルサレム陥落後、判別は困難)

2、人類の罪の解決のため、神の義しさと神の愛による赦しを実現する方法のある時代。

- ①全く罪の無い人が存在するため。処女降誕 (アダム以来の罪の遺伝にかかわらない、生まれ方)

- ・ユダヤ人は救い主が、処女から生まれる事を知らされていた。(イザヤ7:14)
(マリアには天使が(ルカ1:31)、ヨセフには夢(マタイ1:20)で、別々に知らされ受け入れることができた)

②神の秩序を変えない。(全能の神が、全くの人として生きられた) (ルカ2:22～23 p111)
人間の赤ん坊として生まれ、ユダヤ人として律法の中で成長する。

③祭司による生け贄の儀式を通して、罪の赦しについて理解できる時代。

④エルサレムで、ユダヤ人が木に架けられ、呪われて死ぬことができる時代に生きる。

(ローマ帝国における死刑の方法) (申命記21:22～23 旧p353)

Ⅱ、先駆者ヨハネの誕生を備えられた神 (ルカ1:28～56 p107)

1、神は先駆者ヨハネの両親として、祭司ザカリヤと妻エリサベツを選ばれた。

①エリサベツはマリアの従姉妹

- ・受胎告知の際、神の奇跡の見本として理解しやすい。(ルカ1:36)

- ・受胎告知の後 唯一、相談し分かり合える間柄。(ルカ1:41)

- ・妊娠初期の不安定な時期を、エリサベツの家で一緒に過ごせる関係。(ルカ1:56)

②ザカリヤの家は山地にあるユダ町…ナザレから行きやすい。(ルカ1:39)

2、祭司ザカリヤの口がきけなくなった奇蹟…不信仰の罰ではなく (ルカ1:56)

①親族、地域の人々に生まれる子の使命を知らせる。(ルカ1:76)

②続いて現れる救い主を待ち望む期待と心の備えを人々に与える。(ルカ1:77～79)

* ディスカッション (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。